

平成 30 年度 第 1 回立川市史編さん委員会 会議録

開催日時 平成 30 年 10 月 16 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

開催場所 RISURU 第 6 会議室

出席者 [委 員] 小坂克信 ◎白井哲哉 鈴木 功 豊泉喜一 ○檜崎茂彌
保坂一房 和田 哲

（◎委員長、○副委員長、50 音順、敬称略）

[事務局] 産業文化スポーツ部長渡辺晶彦 地域文化課長比留間幸広
市史編さん担当主査小川始 鳥越多工摩 朝比奈新
木津亜希菜 藤野哲寛 渡邊皓太郎 山下祐香理

傍聴者 なし

（事務局）開会に当たり事務局の職員の変更を報告する。平成 30 年 4 月から地域文化課長として岡本珠緒に代わり比留間幸広が、近代の専門嘱託として清水裕介に代わり木津亜希菜が、現代の嘱託として森脇孝広に代わり渡邊皓太郎が着任したのでお知らせする。

1 立川市史編さん委員長あいさつ

（委員長）市史編さん委員会議は 8 月に開催予定であったが諸般の事情により 10 月に変更となり本日の開催となった。今後の市史編さん事業に関して課題などあれば忌憚なく意見の交換をしていただきたい。

2 専門部会活動報告及び活動予定（資料 1）

（事務局）先史部会の今年度上半期の活動を報告する。まず竹内勇貴氏寄贈資料について、昨年度末に未整理の資料が 11 点見つかったので実測図とトレース図を作成した。竹内氏寄贈資料の整理作業は 5 月に終了したため、歴史民俗資料館に資料は返却した。

6 月には土器片の胎土分析を委託し、岩石学的な分析と蛍光 X 線を使った二つの自然科学分析を行った。その分析結果によると、多摩川、相模川、荒川、甲府方面の土の特徴と一致していることが分かっており、非常に広い範囲の土が使用されていることが確認できた。

10 月には竹内氏寄贈資料の報告書の印刷業者が決定した。現在スケジュールの調整を行っている。

一方、大和田遺跡の第 1 次・第 3 次・第 4 次地点の整理作業についてだが、現在は報告書に掲載する資料の選定と破片資料の実測を行っている。これとは別に、完形土器 14 点および石器 151 点の実測委託を今年度中に予定している。

また、縄文中期の遺跡リストの作成を進めており、現在多摩地域の半分ほどが終了した。エクセルに数値を入力していき、GIS ソフトを使って分析を行っている。分析の仕方はまだ試行中であるが、作業自体は順調に進んでいる。

5 月から 7 月にかけて、個人寄贈の石鏃について調査した。これは 20 数年ほど前に個人で収集した石鏃二百数十点が歴史民俗資料館に寄贈されたもので、時期や型式などがはっきりとしているものを抽出したところ 46 点になった。これらを分析した結果、調布の下布田遺跡、群馬、神奈川、千葉、山梨など、立川以外の広範囲から収

集されたいことが分かり、個人的なコレクションとして集められたものではないかと結論づけている。

そのほか、多摩川流域古墳分布調査も行っており、これについてはほぼ終了している。報告書刊行に向けてリストと分布図のレイアウト作成を進めている。合わせて、古墳候補地の地中レーダー探査について、2か所予定をしているが、個人宅に関しては地権者、沢稲荷に関しては氏子並びに関係者の協力を得て調査の承諾を得ている。実施は来年度を予定。また、沢稲荷の全景写真の撮影も3月に予定しており、準備を進めている。

会議についてだが、定例の打ち合わせを谷口部会長と共に國學院大學にて月1回実施し、調査の進展や成果を確認している。第1回の部会会議は10月29日に予定している。

今後の予定は、先述した沢稲荷全景写真の撮影と定例の打ち合わせ、そして3月15日に竹内氏寄贈資料の報告書刊行、それぞれ準備を進めていく。

(委員)石鏃の調査についてだが、寄贈者は一人であるか。また、現在はどこにいるのか。

(事務局)一人である。寄贈者は既に亡くなっている。

(委員)古墳の地中レーダー探査について、個人宅と沢稲荷とあるが、これは別地点であるか。また、個人宅とはどの辺りか。

(事務局)別地点である。

(委員)石鏃についてだが、報告に上がっている46点以外はどこで収集されたものか不明であるのか。

(事務局)場所だけでなく収集された経緯も不明である。収集者のご遺族が、本人の死後昭和60年ごろに歴史民俗資料館へ寄贈したということしか分かっていない。その寄贈分が二百数十点あり、その中から時期や形式が確実に特定できると判断し選出されたのがこの46点である。分析を行った主任調査員によると、地域的な特徴のあるものも数点見られ、千葉や群馬のような、東京以外のものも多数含まれているようである。

(委員)砂川地域でも昔から畑などから石鏃などが見つかっているので、今も誰かが持っていれば話を聞けるかもしれない。

(事務局)古代・中世部会では6月から8月の間に主に市外で調査を行った。昭島市の廣福寺では過去帳と鎌倉期以降の板碑4基、宝篋印塔4基の拓本を採取し、国立市の南養寺でも鎌倉期以降の板碑9基の拓本を採取した。8月には日野市高幡不動尊金剛寺にて戦国期の土方文書9点について調査を行い、同日あきる野市の小宮神社では寛正4年の梵鐘の拓本を採取した。また、檜原村の郷土資料館に寄託されている土屋家文書と御とう帳を調査した。戦国期の文書2点と、元亀3年以降の春日神社神事帳約300点を撮影。

その他、委員による資料編掲載資料の選定作業が終了している。現時点では600点以上掲載候補となっているが、600点以内にまとめる方針である。また、細目次・網目次の作成と、調査員には資料編掲載資料の活字入力作業も進めてもらっており、この作業は3月までに終了するよう計画している。

今後の予定であるが、11月以降に青梅市の玉泉寺で建暦2年の奥書のある大般若經の調査を計画しており、日程を調整中である。また、資料編掲載に向け、担当委員と

個別で打合せを進めている。加えて、歴史民俗資料館に所蔵されている立川章氏旧所蔵文書9点に対し、裏打ちされているものを剥がし、裏にある文字や花押を確認する作業を行った上で修復する計画も進めている。

(委員長)立川文書は卷子になっていると思うが、それを剥がして確認するということか。

(事務局)剥がして一点一点平置きの状態にする計画である。

(事務局)近世部会では、これまで柴崎地区での所在調査を行ってきたが、砂川地区についても調査を進めている。砂川では5月に1軒調査を行った。また、富士見町のI家にて近世・現代版本等を、柴崎町のO家にて地券及び地券書上帳を調査終了のため資料返却を行った。一方、昭島市の廣福寺にて、廣福寺所蔵の普濟寺関係文書の調査を実施した。近世部会としてはまだ正式にあいさつをしていなかったのもので、富善部会長とともに資料編に関しての相談も兼ねてお伺いした。文書の撮影は1月に予定している。

部会会議は7月と9月に実施した。

その他、継続作業として、歴史民俗資料館所蔵の須崎家文書の整理作業が終わり、目録の統合データが完成した。近世部会の現在の中心作業となっている鈴木家文書等の資料編掲載資料の選定及び筆耕作業に関しては、引き続き作業を進めており、『調査報告書 近世1 鈴木家文書目録』の各関係機関への発送作業は終了している。I家文書の整理作業も終了し、6月には返却を済ませている。そして、今年度も、市民協働作業である「立川の史料を読む会」を毎月第3金曜日の午後1時半から実施しており、前期は第6回まで終了している。

今後の予定としては、砂川地区の所在調査を引き続き進め、また、まだ調整している段階ではあるが、市外の資料保存機関への調査も進めていく。第3回の部会会議は12月を予定し、定例の「立川の史料を読む会」も毎月の予定通り実施する。

(事務局)近代部会では、編集委員に近代公文書類のデジタル化が完了したデータを渡し、『資料編 近代②』に掲載する候補資料リストを随時更新してもらっている。この掲載候補資料である役場文書の筆耕作業を主任調査員に進めてもらっているが、これが80点分完了している。同様に、『東京日日新聞（府下版）』立川関係の主要記事の優先筆耕分も入力作業中である。一方で東京都公文書館において資料の収集、『東京日日新聞（府下版）』のスキャン作業及び府立二中学友会雑誌『武蔵野』、T社社報の撮影を進めていたが、この作業はすでに完了している。

会議については、第1回の部会会議を4月、第2回を8月に開催した。第1回会議では今年度6月に経済史専門の小島委員を委嘱した件が主な議題であり、第2回会議では今年度末刊行を予定している地図・絵図編のコラムの執筆状況の共有をした。

その他、N家文書の細目録作成を継続して進めており、K家に関しては封筒詰め・目録作成・写真資料スキャンが完了している。

今後の予定であるが、基本的にこれまでの作業を継続していく計画である。『資料編 近代②』の刊行が平成32年度末に迫っているのもので、刊行に関わる資料収集を今年度11月頃までには目処をつけたいと考えている。この収集成果を12月の部会会議にて共有し、また、地図・絵図編の原稿の確認作業を進める予定である。そしてN家文書については、継続して細目録作成作業を行う。

(委員長)T社の社報というのは何年から何年に発行されたものか。

(事務局)近代部会で取り扱うのは昭和15年～19年までのものである。

(事務局)現代部会では、継続して歴史民俗資料館、永年保存書庫にて、立川市が所蔵している公文書の調査・撮影を進めている。市外の機関としては、外務省外交史料館、防衛研究所、国立国会図書館にて調査を行っている。また、神戸映画資料館では「基地立川」というタイトルの幻灯を入手し、部会会議等で視聴をした。加えて、T社の資料調査を事務局で実施し、社報・関係資料などを借用した。部会会議・特定部会会議を3月、6月、9月にそれぞれ実施し、『資料編 現代①』の刊行に向けて掲載資料の検討、地図・絵図編のコラムについて確認と検討を進めた。その他、引き続きN家の文書整理を進め、T社から借用した資料に関しても、撮影と目録を作成した。この間、基地関係担当の特定部会委員を1名委嘱した。また、資料調査や筆耕を担当する調査員も2名委嘱している。

今後の予定としては、引き続き『資料編 現代①』の範囲で公文書の調査を進め、歴史民俗資料館に所蔵されている公文書以外の市民の方から寄贈いただいた文書等の資料も、掲載範囲のものは調査や撮影を実施する。市外の機関については引き続き調査を進める予定である。聞き取り調査は今後候補者をリストアップし予定を立てていく。会議は次回12月を予定しており、部会会議、特定部会をそれぞれ実施する。また、立川を中心とした北多摩地域の経済ニュースを掲載していた『立川多摩新聞』が、『資料編 現代①』から『資料編 現代②』の間の期間で刊行されていたため、この記事の目録の作成を進めていく。加えて、部会会議で取り上げられた資料の筆耕作業にも取り掛かっていく予定である。

(事務局)民俗・地誌部会では、聞き書き調査を36件行い、調査人数としては約50名の方々にお話しをうかがうことができた。その中で主要な調査として挙げられるのは4月8日に実施された睦心会の調査と、6月5日から7月5日にかけて実施された自治連加盟自治会へのアンケート調査である。アンケート調査では、97件の回答を得ることができた。その後の期間はほぼ祭礼の調査になるが、8月18日に熊野神社例大祭調査、8月24日から8月26日にかけて諏訪神社例大祭調査、9月16日に阿豆佐味天神社例大祭調査、10月6日に殿ヶ谷まつり調査を、民俗芸能や神輿・山車巡業等の参与観察調査を中心に実施した。会議に関しては7月1日に第1回の部会会議を開催し、同月30日には祭礼調査と筆耕項目の打ち合わせをした。

今後の予定としては、来年1月から3月にかけて、砂川地区において複数の編集委員による共同調査を計画している。会議は12月に第2回の部会会議を予定している。その他、3月には青年団関係報告書の刊行、民俗・地誌部会での成果確認のために毎年度発行している年度調査報告書の作成、『資料編 民俗・地誌①』の原稿の提出をそれぞれ控えている。

(委員)来年の1月から3月にかけて実施予定の砂川地区の共同調査についてだが、どういった内容であるか。

(事務局)現段階で砂川地区の調査が十分でない状態であるので、その取り掛かりとして、砂川の中でもどこか特定の地区を定め、まずは担当の編集委員の調査対象に沿った内容で聞き取り調査を行う予定である。共同調査とは、あくまで部会内で複数の委員が同時に調査をするという意味であり、部会を跨いだ調査というわけではない。

(委員長)全部会の報告が終了したので、改めて何か質問あればご発言願いたい。

(委員)先史部会に関してだが、石器などの産出場所については和田委員が専門なのでご協力いただけたと思う。近代部会に関して、蚕業試験場についてだが、自分の母親が若いころ勤めていたことがあり、当時の写真もある。かつて立川市内に存在し、現在は解体された他施設の調査も、今後進めてほしい。大正 13 年に豊多摩郡中野町から立川に移転してきた農業試験場については項目に書かれていないようだが、試験場から農作物育成の技術をもらったり、多様な作物の紹介を受けたりして、当時の農家はとても潤った。この件に関しても調査をしてほしい。

(委員)蚕の種屋についてだが、Y 氏が営んでいた種屋が立川の中では最後であり、戦後まで続いていたはずである。立川にあった種屋として記録しておくべきである。また、養蚕教師のエピソードなど、市民生活との関わりも調査の対象となるだろう。

もう一点、古代・中世部会の活動内容に砂川旧家所在調査とあるが、どの時代を対象にして調べているのか。

(事務局)この調査は近世部会との合同調査であり、内容としては、近世からある旧家の蔵を調査させてもらい、その中で少しでも中世に関わる資料がないか探すというのが主体となっている。

(委員長)いわゆる砂川の草切人のお宅に伺った際、古代・中世の担当者が同行して、もしその時代に関わる話や資料が出てきた場合に対応できるようにしている、というふうに理解している。

(委員)農業試験場には地下資料室があり、以前桑について調べに行ったことがある。

(委員)学術資料があることは承知しているが、立川との関係がうかがえる資料があるかどうかは不明である。

(委員)かつては桑の品評会があり、品質などを地元の住民に紹介するイベントがあったと聞いている。それは立川と関係しているのではないか。

3 「資料編 地図・絵図」の刊行について（資料 2）

(事務局)本年度最初の資料編として発行される地図・絵図編についての進捗状況について報告したい。まず、仮題であったタイトルに関して、『新編立川市史資料編 地図・絵図』という名称を正式名称として決定した。体裁については以前報告したものと変わらず、A4 版上製本横書きである。資料 2 が章立てである。資料の表が第 1 章近代、裏が第 2 章現代となっており、表の右端にはページ担当と執筆状況が表記されている。表のとおり、執筆はほぼ完了している状況である。

構成としては、本文で地図・絵図の紹介をし、コラムにて特定の絵図・地図をさらに掘り下げて説明するかたちになっている。1 節に対して概ね 1 本から 2 本のコラムを入れている。章は 3 節に分かれており、第 1 章の近代では、仮の節タイトルから修正が入り以前のものから変更されている。第 1 節は明治前期の立川・砂川、第 2 節は甲武鉄道開通後の立川・砂川、第 3 節は立川飛行場と立川・砂川となっている。第 2 章の現代の第 1 節は米軍基地と立川、第 2 節は合併後のまちづくり構想、第 3 節は基地返還後の立川となっている。全部で 89 点の地図・絵図を掲載し、総ページ数は 201 ページとなっていて、ほぼ当初の予定通りである。加えて、印刷の委託先が決定した。立川市内の印刷会社であるぎょうせいデジタル株式会社で、平成 31 年 3 月 15 日納品で作業を進めている。部数は 800 部とし、販売価格は 3,500 円を予定している。

(委員長)資料編地図・絵図の構成は当初近世の資料も掲載予定であったが、掲載資料の確定ができなかったため今回は見送っており、近代と現代の絵図・地図で構成されている。

(委員)前回も確認したが、年代の表記はどのようになっているか。また、江戸時代の資料は掲載されないのか。

(事務局)本文は和暦に続けて括弧で西暦を併記している。今回は明治以降のものに限った掲載になっている。近世のものは近世の資料編に掲載するか、または近世のみ独立して地図・絵図編を刊行するか検討中である。

(副委員長)第1章近代の最後の節である第3節のタイトルが「立川飛行場と立川・砂川」とあり、次の第2章現代の最初の章解説のタイトルが「米軍基地の街から商都へ―中核都市・立川の足跡」とある。この流れで言うと、立川飛行場は単なる飛行場ではなく陸軍の飛行場であったということは明記したほうがいいのではないか。立川の歴史の中で言うと空都としての期間は短く、軍都としての機能を果たしていた期間の方が長い。

(委員)表に反映されていないが、近代の章解説タイトルは「郊外農村から空都・軍都」としている。現代の章解説タイトルを受けて、このタイトルにした。章タイトルの総合的な微調整は今後進めていきたい。

(委員長)確認だが、地図・絵図編にDVDは付くのか。また、掲載点数は全体の何割程度か。

(事務局)当初予定していた検索機能などは作業の都合上付けられなかったが、資料を拡大して詳細に閲覧できるサイズのデータを一部収録する予定である。高精細なデータであるため、DVDの容量との兼ね合いとなるが、出来るだけ多く、半分以上の掲載を予定している。

(副委員長)絵図・地図の方角は揃えるのか。

(事務局)現状としては、資料のタイトルの表記に従う方針である。キャプション等で補足する必要はあるかと思われる。

(委員)ページによって東西南北がバラバラになるということか。

(委員)資料が作成された目的を尊重すべきである。

(副委員長)他の資料と対照させるために、方角を揃えたほうが良いという意見もあった。

(委員)番地が表記されている資料があると思うが、DVDに収録される際ははっきり見られるようになっているか。

(事務局)視認性を確保しつつデータサイズは大きくなりすぎないように調整する。

(委員)中野家の地引絵図はかなり大きなサイズだったと記憶しているが、縮小して掲載する予定か。

(事務局)分割して撮影したものを組み合わせつつ、数ページに跨いで掲載する。地番が確認できるような資料は優先してDVDに掲載する。

4 本編・資料編カバーデザインについて

(事務局)新編立川市史は「本編」2冊、「資料編」12冊、「別編」4冊の刊行が予定されている。体裁としては、カバー付き上製本と決定しており、平成30年度から資料編が順次刊行予定となっている。統一的なカバーのデザインを考えるため、皆様からご

意見賜りたい。

今年度8月に開催された編集委員会議にて編集委員の皆様からお伺いした意見と今回編さん委員の皆様の意見を集約し、それを基に事務局で原案を作り、デザインの委託もしているぎょうせいデジタルに提出して最終的なデザインの依頼とする。11月頃各委員の確認を済ませ、年内には市長の確認を得たうえで最終決定とする予定である。

デザインの考え方であるが、これは8月開催の編集委員会議の意見も踏まえたものである。まず表紙に関しては、タイトルの字体と配置は統一する、各巻に掲載する資料等の写真を複数配置する。裏表紙に関しては、表紙同様に関連する資料を大きく掲載する。背表紙に関しては、書棚に並べた時に一見して同一シリーズであることが判別できる配色、字体、配置にする。図書館等に配架されることも想定して、図書ラベルが添付される位置に文字を配置しないことなどを考慮している。他自治体史や一般書籍を参考資料として用意している。実際に見てご意見をうかがいたい。前回の編集委員会議では、上部に帯状の枠を付けたデザインが候補に上がり、手に取ってもらいやすい、硬いイメージを避けたものが良いのではないかという意見が出ている。

(委員)市のイメージカラーはあるのか。

(委員)たしか、紫だったと思う。

(委員)明朝体よりも筆字の手書き文字のほうが固くなくて良い。

(委員)八王子市史はタイトルに付ける枠の色を変えることで何編であるか区別が付けられるようになっている。そういった、並べられたときの使い勝手も考慮すべきである。市史の表紙は多少固いイメージがあっても良いと思う。

(委員長)奇抜なものである必要はないが、手に取ってもらいやすいデザインを目指していきたい。

(副委員長)50年先まで通用するデザインでなくてはならない。

(委員)デザインの流行りに偏ってしまわないようにすべきである。

(委員長)次の編さん委員会議の時には『資料編 地図・絵図』が刊行されている予定であるので、年末までの間にいくつかのパターンを事務局で作成し、そこから最終的に各委員にデザインを選出してもらおう。そしてその後、理事者各位から確認をもらう流れである。

5 市史編さん広報紙「たちかわ物語」Vol.6の発行について

(事務局)9月20日に市史編さん広報紙「たちかわ物語」Vol.6が刊行された。今回編さん委員からは保坂委員に「新しい市史の編さんに寄せて」を執筆していただき、「資料をよむ」では『資料編 地図・絵図』でも掲載する「武蔵国多摩郡砂川村亀絵図面」について、小坂編さん委員に解説を執筆していただいた。先史部会の特集では向郷遺跡の竹内勇貴氏寄贈資料について解説を交えながら調査報告をおこなった。平成31年3月には第7号の刊行が予定されており、同時に資料編や調査報告書の刊行も順次おこなわれる。「たちかわ物語」の中で刊行物の紹介を積極的に進めていく計画である。各号、編集委員のみなさんには執筆の依頼をしているが、編さん委員のみなさんにも執筆の依頼をすることが今後あるかもしれない。その際は是非ご協力をお願いしたい。現在歴史民俗資料館や各学習館、図書館等にて配布をおこなっているが、新たな配布場所を調整していく予定である。今後もさら

に多くのかたがたに手に取ってもらえるよう尽力していく。

(委員)民俗・地誌部会の坂本委員が、富士見町にて取材をした念仏講について、大変めずらしいものだと言っていた。広報紙にて特集を組んではどうか。

(委員長)現地調査の成果は積極的に掲載していくべき。今後計画に盛り込んで欲しい。

(委員)青年団関係報告書に関して、目次や概要など、どこかのタイミングで内容を確認したいがどうか。自身がかつて30年ほど青年団の活動に関わっていたので、中身を事前に見てみたいと考えている。

(事務局)内容はほぼ完成している状態である。どこかの段階で確認していただけるよう準備を進めていきたい。

6 平成30年度市史編さん関連講演会について（資料4）

(事務局)平成31年1月19日土曜日、13時30時から16時30分の日程で関連講演会を開催する。会場は女性総合センター・アイムの第3学習室となっている。講師は近世部会部会長の富善一敏氏、同じく副部会長の太田尚宏氏の両名で、それぞれ「鈴木平九郎と近世文書社会―「公私日記」を中心に」と「近世後期における多摩地域の平地林と「山仕事」」というタイトルで、一人当たり一時間程度お話しをしていただく。

今年度は市史編さん担当単独での開催ではなく、多摩郷土史フェア内にて、生涯学習センター文化財係（歴史民俗資料館）と共催で講演会を行う。多摩郷土史フェアとは、東京都市社会教育課長会文化財部会主催の、多摩地域の自治体が一堂に会し刊行物を販売する会であり、今回で31回目の開催となる。平成29年度開催時は24市1町が参加した。平成30年度は平成31年1月19日と20日の二日間、立川市女性総合センター・アイムの1階ギャラリーにて開催が予定されている。今回の講演会は、この日程に合わせて行われるものである。当日は10時から12時まで、歴史民俗資料館が担当する講演会が開催される。講師は立川市文化財保護審議会委員の坂本要氏と国立国文学研究資料館の三野行徳氏が担当する。市史編さん室が担当する午後の部は13時30分から16時30分までの開催を予定している。午前の部の講師は、肩書としては歴史民俗資料館の講師となっているが、坂本氏は市史編さん担当の民俗・地誌部会の特定部会委員、三野氏は同じく近世部会の編集委員を担当している方々である。

会場の定員は50名となっており、募集は広報たちかわ平成30年12月25日号に掲載を予定している。なお、受付窓口は歴史民俗資料館になっている。前年度の講演会に関して、広報活動にもっと力を入れるべきという指摘を受け、市広報やホームページ、多摩郷土史フェア参加自治体へのチラシの配布、プレスリリースやミニコミ誌等への働きかけも増やす予定である。

7 その他

(事務局)次回の編さん委員会議の日程についてだが、まだ予定の段階ではあるが3月末ころ、火曜日か金曜日で調整していきたい。

(委員長)全体で他に検討する案件が無いようであればこれで閉会とする。

＜終了 午後3時30分＞